



講義の合間に皆でストレッチ
(Advanced Field Course in Ecology and Conservation - Xishuangbanna 中国)



英語でポスター発表
(6th International Symposium for Food & Agriculture 2018 マレーシア)



エクスカーションで、熱帯林や水族館のバックヤードを見学
(6th Taiwan-Japan Ecology Workshop 台湾)



今年度も佐渡研究室の学生が海外のシンポジウムやフィールドコースに参加しました。



新潟大学演習林ニュースレター

Niigata University Forest Newsletter

新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター 佐渡ステーション

第12号 2019年1月

平成30年度の実習シーズンを終えて



今年度も多くの実習生と王様の小径を歩きました。した。実習内容は、人工林の施業方法、天然林などでの自然観察、河川などでの水生昆虫の分布調査など、例年と同様に多岐に渡るものでした。

今年度は、海外の大学などに所属する学生実習に力をいれました。昨年度に引き続き、JST さくらサイエンスプランを利用し中国雲南省、シーサンパンナ熱帯植物園から学生が来島し、森だけでなく、海や里でも実習を行いました。さらに、新潟大学農学部に Giocal Age 2020 交流プログラムで来日しているトルコからの留学生の実習や、新潟大学経済学部主催による4カ国(日本、台湾、



里山や里地での実習も行っています。

山の雪が解ける5月から、落葉する10月までの約半年間にわたる佐渡ステーション(演習林)の実習シーズンを今年も無事に終えることができました。今年度は、学内実習、他大学が利用する共同利用実習、一般向けの実習や研修など約30件の実習を行いました。佐渡ステーションの利用者は延べ1,771人になり、他大学の利用校数は海外の大学を含め、28校で

韓国、ロシア)佐渡ワークショップを実施しました。3件の実習で、計10カ国から延べ223人が佐渡ステーションを利用しました。佐渡ステーションではこの数年、海外からの利用者を受け入れるために、英語で

の施設案内の掲示や、宗教的な配慮をした食事の提供もしております。今後も増加するであろう、国内外からの利用者に対応できるように、これからも施設の向上に取り組んでいきたいと思います。

一般公開林間実習では、佐渡島内の学校への広報に力を入れた事が功を奏し、島内から多くの子供たちの参加がありました。普段の生活では、森の中に入る事はほとんどないという子ども達ばかりでしたが、一度山に入ると、ピットホールで捕獲した昆虫やスギ天然林のトレッキングに夢中になっていました。今年度、新たに実施した佐渡市主催のこども環境学習では、林業体験と木の工作を行いました。木の工作では、事前に見本品を作っていたのですが、それを越える子ども達のアイデア満載の工作中に脱帽しました。演習林での実習を通じ、子ども達が少しでも佐渡の自然を感じ、楽しんでもらえるようになれば、嬉しいです。

今年の森の珍事としては、スズメガの幼虫の大発生や、例年ほとんどみられなかったマダニ被害が数件ありました。どちらも、原因は分かりませんが、野外で調査実習する際の服装や野外で気をつける点など、改めて認識させられました。

最後に、実習の実施にあたりご協力頂いた皆様に、この場を借りてお礼を申し上げさせて頂きます。来年度も佐渡ステーションのご利用をお待ちしております。



食事では、宗教や食物アレルギーに配慮したメニューを提供しています。



一般公開林間実習では、佐渡研究室の学生も昆虫の解説を行うなど、活躍しました。

(特任助手 菅尚子)

シリーズ

佐渡の動植物⑤ サドナデシコナマコ (*Scoliorhapis dianthus*)



サドナデシコナマコ

体は全長5~12cmほどの棒状で、口部には10本の触手を持ち、それぞれの触手には6対12本の分岐があります。体壁にはいぼ状突起が無数にあり、いぼ状突起の根元付近には無数のS字状の小骨片が埋まっています。体壁やいぼ状突起にある色素により、体全体がナデシコの花色のような薄い橙色やピンク色を呈することから、その名が付けられました。種小名の *dianthus* も

2014年に佐渡島真野湾沢根海岸産の標本により新種記載された佐渡島固有種のナマコで、「無足目」というナマコの中では比較的原始的なグループに分類されます。

「ピンク色の花」という意味のラテン語で、この単語は植物のナデシコの属名にもなっています。

本種は水深1~5mほどの海底の砂泥中に棲み、砂泥中の有機物を濾しどって食べていると考えられています。海に入って砂泥を掘り起こさないと見つけられないため、普段の生活で見ることは難しいですが、模式産地の沢根海岸における生息数は多く、学生実習の一環として臨海実験所で毎年実施している沢根海岸の動物採集実習においても、毎回数個体~十数個体が採集されます。沢根海岸以外での採集例はありませんでしたが、最近になって、佐渡島北東部に位置する虫崎の水深2~3mほどの海底の砂泥中からも本種が発見され、島内の他の砂泥海岸にも生息する可能性が高まっています。小さく目立たないナマコではありますが、佐渡の海の豊かさと多様性を示す動物といえるでしょう。

(理学部附属臨海実験所 助教 大森紹仁)

研究紹介⑨ ツバキ節を中心とする花の形態比較および MiG-seq を用いた分子系統解析

冬から春先にかけて赤や白の大きな花を咲かせて私たちを楽しましてくれるツバキ。国内だけでも数千を超す園芸品種が存在しているツバキですが、ツバキ属 (*Camellia*) の原種は東アジアから東南アジアにかけて250種ほどしか分布していません。

私たちがツバキときいて思い浮かべるのはヤブツバキ (*Camellia japonica*) の花かと思いますが、これはツバキ属ツバキ節 (sect. *Camellia*) に属しています。ツバキ節で日本に自生する



花の色や大きさは違うが、どちらもツバキ属の植物
(富山県、カイニヨト椿の森いのくち椿館の原種椿園)

種は、このヤブツバキとユキツバキ (*Camellia rusticana*) しかありません。この2種は先行研究(三浦2015年度修士論文)によると、ヤブツバキは赤く大

きな花弁を持ち、鳥が花粉を媒介する植物であるのに対し、ユキツバキの花弁色や大きさはヤブツバキと同様の特徴を有するものの、昆虫が花粉を媒介する植物であることが報告されています。一方、アジア大陸に自生するツバキ節の花形態は、ヤブツバキやユキツバキのような赤く大きな花だけでなく多様な色や大きさを有しており、その系統関係は未解明な点も多いです。

そこで私の研究では、選択圧が大きく影響すると考えられる花形態と遺伝的分化に着目し、形態比較およびMiG-seqという次世代シーケンサー(Mi-seq)を用いた分子系統解析を行うことでツバキ節を中心とした系統関係を明らかにし、日本産ツバキ節の種分化の要因と系統的な位置づけを探っていきたいと考えております。



Mi-seq

(佐渡研究室 修士課程2年 片山瑠衣)

お知らせ

平成30年度 新潟大学佐渡3施設合同学生発表会

一森、里、海に暮らす生き物や環境について研究した成果を発表します!

日時: 2019年2月16日(土) 10時30分~17時10分 ※途中入場、退場可能

場所: トキ交流会館 2階会議室(佐渡市新穂潟上1101-1)

どなたでも参加歓迎ですので、興味のある方はお気軽にお越しください。事前申込み、参加費は不要です。発表プログラムにつきましては、後日、佐渡ステーションのホームページ、ブログなどで公開いたします。

平成31年度共同利用実習の申込みについて

佐渡ステーションでは、平成31年度の受託型、フィールド利用型の共同利用実習の申込みを受け付けております。佐渡ステーションでの実習実施を希望の方は、ホームページで共同利用実習の詳細を確認し、事前に電話又はメールにてご連絡をお願いいたします。公募型の共同利用実習につきましては、日程等決まり次第、順次ホームページでお知らせいたします。

共同利用実習募集中!

佐渡ステーションでは、共同利用実習や演習林での調査・研究の受け入れを随時行っています。ご希望の方は、お気軽にご相談ください。

実習の様子などをブログで紹介しています

佐渡研究室 検索

編集後記:

年が明けて佐渡では寒さが増し、波の花も舞うようになりました。冬の佐渡も春や夏に負けないくらい魅力的です。実習はありませんが、機会がありましたら、ぜひご来島下さい。

(特任助手 菅尚子)

新潟大学演習林ニュースレター

編集・発行:新潟大学農学部フィールド科学教育研究センター 佐渡ステーション

〒952-2206 新潟県佐渡市小田94-2

tel: 0259-78-2613 fax: 0259-78-2929 e-mail: sadoken2011@gmail.com

ホームページ http://www.agr.niigata-u.ac.jp/fc/sado_html/sado_index.html

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。